研究キーワード

補酵素含有酵素の触媒機構, 類似元素識別の酵素触媒機構, 必須微量元素セレンの取込機構

江﨑 信芳

学長

ESAKI , Nobuyoshi

E-Mail nobesaki@kankyo-u.ac.jp

Profile

■研究者略歴

1973（昭和48）年 3月	京都大学農学部農芸化学科卒業
1975（昭和50）年 3月	京都大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了
1979（昭和54）年 3月	京都大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士課程修了
1979（昭和54）年12月	京都大学化学研究所助手
1983（昭和58）年 7月	米国Massachusetts Institute of Technology客員研究員（文部省在外研究員）（～ 1984年12月）
1989（平成 元）年 3月	京都大学化学研究所助教授
1996（平成 8）年 4月	京都大学化学研究所教授
2005（平成17）年 4月	京都大学化学研究所所長（～ 2008年3月）
2008（平成20）年10月	京都大学理事・副学長（～ 2014年9月）
2014（平成26）年 9月	京都大学名誉教授
2015（平成27）年 3月	放送大学京都学習センター所長，特任教授（～ 2018年3月）
2018（平成30）年 4月	公立鳥取環境大学理事長兼学長

Research

■取得学位	農学博士（京都大学）
■専門分野	酵素科学，応用微生物学
■現在の研究テーマ	・補酵素含有酵素の触媒機構 ・類似元素識別の酵素触媒機構 ・必須微量元素セレンの取込機構
■受賞歴	1989（平成 元）年4月　日本農芸化学奨励賞 2009（平成21）年4月　Humboldt Research Award受賞 2013（平成25）年4月　日本微量元素学会功績賞受賞
■所属学会	日本化学会，日本微量元素学会，バイオインダストリー協会，日本農芸化学会，日本生化学会

Data

■研究等活動

【著書】

・「Chapter 18 Proteomic Insights of Psychrophiles」, Psychrophiles: From Bioversity to Biotechnology, 2nd Edition, 2017年, Springer Verlag（共著）
・「Chapter 10 Mechanism, structure, and biological role of selenocysteine lyase」, Selenium Its Molecular Biology and Role in Human Health, Second Edition, 2016年, Springer Verlag （共著）
・「生化学基礎の基礎」2002年, 化学同人（共編）

【論文】

・「Global identification of genes affecting iron-sulfur cluster biogenesis and iron homeostasis」（共著）, 2014年, J. Bacteriol., 196, pp1238-1249
・「Occurrence of a bacterial membrane microdomain at the cell division site enriched in phospholipids with polyunsaturated hydrocarbon chains」（共著）, 2012年, J. Biol. Chem. 287, pp24113-24121
・「Substrate specificity of fluoroacetate dehalogenase: An insight from crystallographic analysis, fluorescence spectroscopy, and theoretical computations」（共著）, 2012年, Chemistry - A European Journal 18, pp8392-840
・「Identification of novel mammalian phospholipids containing threonine, aspartate, and glutamate as the base moiety」（共著）, 2011年 J. Chromatogr. B: Analyt. Technol. Biomed. Life Sci. 879, pp3296-3302
・「Favourable effects of eicosapentaenoic acid on the late step of the cell division in a piezophilic bacterium, Shewanella violacea DSS12 at high-hydrostatic pressures」（共著）, 2011年, Environ. Microbiol. 13, pp2293-2298
・「Escherichia coli dihydropyrimidine dehydrogenase is a novel NAD-dependent heterotetramer essential for the production of 5,6-dihydrouracil」（共著）, 2011年, J. Bacteriol. 193, pp989-993
・「Reaction mechanism and molecular basis for selenium/sulfur discrimination of selenocysteine lyase」（共著）, 2010年, J. Biol. Chem. 285, pp12133-12139
・「2-Haloacrylate hydratase, a new class of flavoenzyme that catalyzes the addition of water to the substrate for dehalogenation」（共著）. 2010年, Appl. Environ. Microbiol. 76, pp6032-6037

■社会貢献活動

・IUPAC Subcommittee on Biotechnology委員（2003～2011年）
・Extremophile誌編集委員（2003～2013年）
・The Chemical Record誌編集委員（2009～2013年）
・文部科学省科学技術学術審議会研究環境基盤部会専門委員（2009～2014年）
・公益財団法人長瀬科学技術振興財団理事（2009～2017年），同評議員（2017年～）
・公益財団法人野田産業科学研究所評議員（2010年～）
・公益財団法人加藤記念バイオサイエンス研究振興財団評議員（2010年～）

研究キーワード
動物の行動，人と自然の精神的つながり，野生生物の生態と保護

小林 朋道

副学長（学生生活・就職，広報，地域連携・国際交流，企画・評価担当），学生支援センター長
教授

KOBAYASHI, Tomomichi

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail t-kobaya@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　生物学概論，自然環境保全概論，動物行動学，保全生態学

■研究者略歴

1981（昭和56）年 3月	岡山大学理学部生物学科卒業
2004（平成16）年 1月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
2006（平成18）年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究科教授
2012（平成24）年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2014（平成26）年 4月	鳥取環境大学副学長補佐(研究・社会貢献・国際交流担当)
2015（平成27）年 4月	公立鳥取環境大学副学長補佐(研究担当，地域貢献・国際交流担当)，環境学部環境学科教授，大学院環境情報学研究科教授
2016（平成28）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部長，大学院環境経営研究科副研究科長，環境学専攻長
2018（平成30）年 4月	公立鳥取環境大学環境学部長，大学院環境経営研究科研究科長，環境情報学部研究科長
2022（令和 4）年 4月	公立鳥取環境大副学長(学生生活・就職，広報，地域連携・国際交流，企画・評価担当)，学生支援センター長

Research

■取得学位　理学博士（京都大学）

■専門分野　動物行動学，進化心理学

■現在の研究テーマ
・脊椎動物の行動や生態に関する研究とそれに基づいた生息地保全活動
・人と自然の精神的関わりに関する動物行動学的解析

■受賞歴　1993（平成5）年4月　岡山県野崎教育賞

■所属学会　日本動物行動学会，日本生態学会，日本環境教育学会

Data

■研究等活動

【著書】
・「動物行動学者、モモンガに怒られる」身近な野生動物との共存（単著）2022年5月山と渓谷社
・「先生，大蛇が図書館をうろついています」鳥取環境大学の森の人間動物行動学（単著）2020年6月，築地書館
・「先生，アオダイショウがモモンガ家族に迫っています」鳥取環境大学の森の人間動物行動学（単著）2019年6月，築地書館
・「フィールドワークという魔力」中央公論 Digital Digest（共著）2019年9月 中央公論社
・「先生，脳の中で自然が叫んでいます！」鳥取環境大学の森の人間動物行動学（単著）2018年8月，築地書館
・「先生，オサムシが研究室を掃除しています！」鳥取環境大学の森の人間動物行動学（単著）2018年5月，築地書館
・「進化教育学入門－動物行動学から見た学習」（単著）2017年1月，春秋社
・「ホモ・コントリビューエンス」（分担著）2017年11月，未來社
・「先生，犬の捜索をサンショウウオにさせるのですか！」鳥取環境大学の森の人間動物行動学（単著）2017年5月，築地書館
・「先生，イソギンチャクが腹痛を起こしています！鳥取環境大学の森の人間動物行動学」（単著）2016年6月，築地書館
・「先生，洞窟でコウモリがアナグマと同居しています！鳥取環境大学の森の人間動物行動学」（単著）2015年6月，築地書館
・「ヒトの脳にはクセがある 動物行動学的人間論」（単著）2015年1月，新潮社
・「ヒト，動物に会う コバヤシ教授の動物行動学」（単著）2014年3月，新潮社
・「絵でわかる動物の行動と心理」（単著）2013年4月，講談社
・「なぜヤギは車好きなのか？鳥取環境大学のヤギの動物行動学」（単著）2012年5月，朝日新聞出版
・「利己的遺伝子から見た人間」（単著）2012年3月，PHP研究所
・「先生，キジがヤギに縄張り宣言をしています！鳥取環境大学の森の人間動物行動学」（単著）2011年3月，築地書館
・「ヒトはなぜ拍手をするのか-動物行動学から見た人間」（単著）2010年12月，新潮社
・「働態研究の方法」（分担著），2010年8月，人類働態学会
・「タゴガエル鳴く森へ出かけよう！」（単著）2009年6月，技術評論社

【論文】
・ニホンヤマネにおけるフクロウの鳴き声に関する認知と記憶（単著）山陰自然史研究27巻 2022年12月
・ユビナガコウモリにおけるテンの体毛のニオイに対する識別と忌避行動（共著）山陰自然史研究27巻 2021年
・ニホンモモンガに外部寄生するノミMonopsylius argusは自然宿主と非自然宿主の体毛を識別するか（単著）山陰自然史研究26巻 2020年
・トガリネズミChimarrogale platycepallusは水中で“スクーバタンク”を利用している可能性がある（共著）山陰自然史研究26巻 2020年3月
・鳥取県内における洞窟性コウモリの生息状況　鳥取県立博物館研究報告（単著）55巻2018年3月
・ニホンモモンガPteromys momongaによるフクロウの鳴き声に対する反応　山陰自然史研究24巻 2017年3月
・ユビナガコウモリに外部寄生するケブカクモバエの宿主識別行動（単著），2015年12月，自然環境科学研究　第28巻
・Why do small Japanese flying squirrels Pteromys momonga prefer to use bark of Japanese ceder as a nest material？Ⅱ. Study of heart-trapping capacity,（単著）　2014年8月　Natutal Environmental Science Reserch　27巻
・巣箱利用から見た鳥取県芦津渓谷におけるニホンモモンガ，ヤマネ，ヒメネズミの生息場所選択性（単著），鳥取県立博物館研究報告，第50巻
・ニホンモモンガ Pteromys momonga 成獣による巣内同居の誘発要因の分析（単著），2013年1月　鳥取県立博物館研究報告，第49巻
・鳥取県芦津渓谷のニホンモモンガ *Pteromys momonga* の生態的諸知見（単著），2012年12月　自然環境科学研究　第25巻
・Why do small Japanese flying squirrels *Pteromys momonga* prefer to use bark of Japanese ceder as a nest material?(単著)，2012年12月　Natural Environmental Science Research 第25巻
・動物行動学から見たヒトの脳のクセ（単著），2012年8月　学士院会報　第895巻
・鳥取県智頭町芦津森林で見られた樹上性齧歯類や潮流の巣箱の使い分け（単著），2011年3月 鳥取県立博物館研究報告
・A perliminary study of aggressive behavior in Siberian chipmunk *Eutamias sibiricus* pups:the behavioral pattern and its possible antipredator function（単著），2010年6月 鳥取環境大学紀要
・ヒメネズミApodemus argenteusの幼獣で発見された捕食者の臭いに対する新しいタイプの行動（単著），2010年3月 山陰自然史研究
・樋門近くの河川敷に創出した水場へのスナヤツメとアカハライモリの定着・繁殖（単著），2010年3月　鳥取県立博物館研究報告
・アカハライモリの幼体および成体の陸上での分布状況（単著），2009年4月　自然環境科研究

■社会貢献活動

・「動物行動学から見た動物やヒト」，「野生動物の保全活動」についての講演
・野生生物の生息地の保全と結びつけた地域の活性化活動
・鳥取生物学会会長・特別天然記念物オオサンショウウオ保護方針検討会委員
・千代川の今後を考える学識懇談会委員
・とっとり生物多様性推進センター協議会委員

研究キーワード
フィリップス曲線, 金融政策, 為替政策, 波及経路

矢野 順治

YANO, Jyunnji

副学長（教育，入試，研究，情報担当），
アドミッションセンター長
特任教授

所属…経営学部 経営学科

E-Mail yanoj@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目　金融入門, 金融市場論, 証券投資概論

■研究者略歴

1987（昭和62）年12月	シカゴ大学経済学部博士課程修了
1987（昭和62）年12月	名古屋大学経済学部助手
1989（平成 元）年 4月	長崎大学大学経済学部講師
1998（平成 9）年 4月	広島大学経済学部教授
2015（平成27）年 4月～	公立鳥取環境大学経営学部教授
2016（平成28）年 4月～	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2018（平成30）年 4月～	公立鳥取環境大学経営学部長，大学院環境経営研究科副研究科長，経営学専攻長

Research

■取得学位　経済学博士（シカゴ大学）

■専門分野　金融論

■現在の研究テーマ
・フィリップス曲線と金融政策分析
・金融政策の波及経路

■所属学会　日本経済学会，日本金融学会，生活経済学会

Data

■研究等活動

【著書】

・「E-viewsで学ぶ実証分析の方法」（共著） 2013年 日本評論社「国際金融 理論編」（共著） 2008年 有斐閣 「E-viewsで学ぶ実証分析入門 （基礎編，応用編）」（共著） 2008年 日本評論社